

株式会社 博善社

「人生の大切な場面をお手伝い」

[サービス業]
葬祭業

代表者名：代表取締役社長 中村英二

従業員数：55 人

創 業：昭和 54 年

住 所：長野市東和田 245-1

T E L：026-243-8510

事業内容：葬儀プランニング・法事等アフターサービス

給 与：17 万～23 万

博善社は北信地区を中心に冠婚葬祭業を展開する“博善グループ”会社の一つです。冠婚葬祭業は人生の節目を担う大切な仕事です。

長野市に本社を構える博善社は、須坂市の「ハクゼンホールセレモニー須高会館」をはじめとし、長野市など3つの会館で大切な故人を送るお手伝いをしています。昭和 55 年に博善社として須坂市で誕生して以来、お客様の希望を形にすべく“おもてなしのこころ”を大切に、真心を込めた葬儀を行ってきました。現在、博善社ではパートを含め約 60 人が勤務し、葬儀のセレモニースタッフや営業担当など各部門に分かれています。

●多様化する葬儀に答える

人の命には必ず終わりがあります。葬儀関係の仕事は故人を送るために重要な役割を果たすことから、いつの時代も一定の需要がある仕事だと言えます。

「時代のニーズに合わせたプラン作りと営業力が必要とされますね。今、故人の送り方は様々で、細かな事まで依頼できる時代です。お客様のあらゆる要望に応えられる仕事が求められています」そう答えるのは博善社で総務部長をしている竹村美智子さんです。竹村さんは入社してから 30 年間総務の仕事に携わり、現在も人事や社員教育に尽力されています。



●やりがいを感じる瞬間

葬儀の仕事は、お客様からの一報が入り駆け付けることから始まります。そのため会社はいつでも対応が可能な状態でいなければなりません。また、葬儀会場では遺族を案内したり参列者を誘導したり、配膳の準備から片付けなど各スタッフが息を合わせることも必要です。

「よくやってもらった、良い葬儀だったと、ご遺族から感謝の言葉を聞いた時が一番やりがいを感じます」と竹村さんは話してくれました。



●女性が活躍できる職場

長い年月人事に携わってきた竹村さんは、自分と同じ女性が働きやすい環境づくりを常に考え、温かく見守っています。

「この仕事は体力勝負ですが、きちんと職場で研修を行うので経験がなくても心配はいりません。お客様に感動していただけるお手伝いできればやっと一人前ですね」と話す竹村さん。

「葬儀の対応によって、お客様と良い関係を築け



ることができれば、その先もお付き合いが続き、一周忌など法事を承ることに繋がります。お客様の要望に応えるためには、柔軟性や判断力が求められます。お客様への細やかな気遣いや優しさを必要とするこの仕事は、ある意味女性向きだと言えますね」実際に、その特性を生かして女性社員が活躍しています。



●いっしょに泣いたらプロではない

ある時、竹村さんは女性の新社員から「葬儀の仕事に立ち会っていると、どうしても感情移入してしまう」という相談を受けたそうです。こんなに涙もろくて仕事をやっていけるのだろうかという悩みでした。それに対して竹村さんは「泣いてしまって進行ができないというのはプロではないけれど、悲しみに慣れてはいけないよ」と助言したそうです。「確かに葬儀の仕事は、いっしょに悲しみを感じながらしっかりと進行しなければならないという精神面の強さが求められます。厳しく難しい仕事だからこそ、心を込めて務めた結果、お客様に感謝されることは大きなやりがいに結びつきます」と竹村さんは話しました。

●優しさと強さが求められる仕事

博善社には“セレモニースタッフ”や“営業（葬儀担当）”という職種があります。セレモニースタッフは主に葬儀会場で会葬者の誘導また法事のお手伝いなどを担当します。営業はお通夜の手配から納棺、告別式、お斎（おとき）までのコーディネートを行っています。さらに、葬儀をプランニングする“葬

祭ディレクター”という資格を持った社員は現在17人在籍しています。これは厚生労働省が認定する個人の葬儀をプランニングできる2級と社葬プランニングができる1級の資格です。博善社ではこの資格を目指す社員をバックアップしています。葬祭ディレクターは主に男性が担当していますが、葬儀が重なることもあるため精神力と体力の両方が必要です。葬儀の担当者は、ご遺族に寄り添って打合せもしなければなりません。優しさと強さを持ちあわせた頼もしい仕事です。



●希望する人材『気配り・目配り・心配り』

博善社では社員同士がお互いに指導し合える雰囲気があるそうです。竹村さん自身も「後輩に教えながら共に成長してきた」と話します。「働く仲間として希望する人材は『気配り、目配り、心配りが得意な人』」とのこと。

人生の大切な場面のお手伝いは十分なやりがいを感じることができます。お客様に感謝され達成感を味わえる究極のサービス業に、あなたも携わってみてはいかがでしょうか。



(2016年11月インタビュー)